



### ■ 今年最後のすくすくパトロール

今年度、6月2日から始まったすくすくパトロールは、3月2日まで、合計12回（雨天中止1回）行うことができました。毎月第1・3火曜日、交差点の見守り（グリーン歯科前）や不審者対応（校区巡回）など、1時間程度のパトロールを行ってきました。参加者は、校長、教職員、PTA役員、保護者、地域住民ボランティアです。ピンクのタスキを付けて、2003年から続いており、18年目に入ります。歩きながら、それぞれの立場で校区の安全を確認することは重要で、今後も続けていきたいパトロールです。



地域住民のどなた様も参加していただけますので、次年度も、子どもたちの安全安心の活動にお時間を頂ける方、学校にご連絡をくださるとありがたいです。☎ 382-1020

### ■ 学校運営協議会委員の意見と、学校の改善点 ②

前号に引き続き、今年度の学校の取り組みについての委員意見と、来年度に向けた学校が示す改善点を掲載します。

#### 委員からの評価、意見

##### 【人権学習にかかわることについて】

- ◆自己肯定感が高まるのは良い。即時評価が成果につながった。今後も児童の自尊感情が高まること、学校が楽しく、相談しやすい場所で、不登校等を減らす取組につながることを期待したい。
- ◆コロナを扱った人権学習ができたことは良かった。コロナ禍の中で偏見や差別が問題になる事例が発生する中、だれもが安心して過ごせる学校であってほしい。感染者に対する偏見に対しては、学校の教育だけでなく、各家庭での啓発が必要である。
- ◆子どもたちはコロナ禍の行動が制限されることにより、楽しい時間が減ったように感じているのではないかと。子どもにとって相当なストレスを抱えているので、この時期だからできる取組にシフトチェンジできるようになりたい。
- ◆外見や身体的特徴など、見える障がいに対しては、優しく向き合える社会になってきている。性的マイノリティに関しては、まだこれからという状況か。カミングアウトの問題も含め、小学校では、子どもの実態に合わせた学習を進めて欲しい。
- ◆差別の解消に向けた授業の取組や、学校だよりでの発信は大変良かった。
- ◆人権学習は6年間の見通しを持った系統的なカリキュラムを更新し、作成していく必要がある。  
(裏面に続きます)

- ◆いじめなどに関しては、子どもたちの日常である「楽しかったこと、嫌だったこと、悲しかったこと」などの声が拾える取組をして欲しい。
- ◆虐待については、発見が遅くならないよう、気になることがあれば学校に相談できるような体制を継続してほしい。
- ◆コロナの影響でブラジル人学校との交流ができなかったのは残念である。今後も外国人との共生や、国の文化、宗教、生活スタイルなど相互理解はさらに必要になっていく。来年度は実施できるとよい。
- ◆特別支援教育や外国籍児童の学力保障には、人材が必要である。行政への働きかけ、ボランティアの確保は欠かせない。必要に応じ地域の人材活用を進めたい。

### 来年度に向けた改善点

- (1) 新型コロナウイルス感染症に関する偏見や差別の解消に係る人権学習は、年度当初に全学年で取り組むようにします。また、各学年の人権学習は、年間計画に位置付け、見直しなどを図りながら取組を進めます。教員は研究授業に取り組んだり、中学校区で相互に学んだりする機会を持つようにします。
- (2) 学校は、常に児童や保護者にとって、相談しやすい環境になるように配慮し、平素から信頼関係の構築に努力します。
- (3) 学級では、いじめや差別を許さない仲間づくりの取組を基本に据えて、事象が起こった場合に限らず、問題が予見される場合などにおいて、校内各担当、関係機関等との緊密な連携、迅速な対応で、組織全体で問題の解決を図ります。
- (4) 飯野小校区にある EAS ブラジル人学校との交流を含めた学習は、地域における特色ある取り組みであり、計画していきます。
- (5) 特別支援学級と普通学級児童が互いに知り合い、共感し合う取組を積極的に進めるため、職員研修に取り組めます。



- ↑ ☆ 9日、飯野幼稚園の子どもたちが、1年生と交流する機会がありました。1年生は、この日のために、プログラムを考え、校歌や国語音読、楽器やダンス、こま回しの練習などをして、園児を迎えるための準備をしてきました。おにいさん、おねえさんとして、ひとまわり大きくなった1年生は、元気で、にこやかで、自信に満ちていました。